

コロンビアの最新動向(12月16日～12月31日)

I. 政治・経済

1. 政府が最低賃金を6.4%引き上げ

- 12月27日、政府は2008年の最低賃金(月額)について、現在より6.4%引き上げ、461,500ペソ(約229米ドル)とする旨発表した。
- コロンビアでは、12月に最低賃金の引き上げを巡って労使間で話し合いが行われていた。しかし、5.6%の賃金引上げを主張する雇用者側と10.5%を主張する労働者側で合意に至らず、政府による決定がなされた。
- 今回の決定は、現在の年間インフレ率(5.4%)と2008年のインフレ目標値(3.5%–4.5%)を考慮した上で、ペソ高により輸出業者の競争力が弱まっていることに配慮したものである。
- 政府は2007年には6.3%、2006年には7.0%の最低賃金引上げを行った。

2. 経常赤字がGDP比3.4%に拡大

- 12月28日、中銀の発表によると、2007年の第3四半期までの9ヶ月間の経常赤字はGDP比3.4%、42.9億米ドルとなり、前年同期(GDP比2.2%、21.5億米ドル)に比べ赤字が拡大した。
- 貿易収支は前年同期の4.2億米ドルの黒字から、マイナス9.1億米ドルの赤字へと転落した。ペソ高の影響で輸入が輸出を上回るスピードで成長した。
- また、外国企業の国外送金額は44.1億米ドルとなり、前年同期比で27%の増加となった。一方、外国から国内への送金額は32億米ドルと前年同期比で12.8%の増加となった。

II. 石油その他の資源セクター

1. Ecopetrol、国内最大の石油化学会社買収へ

- 12月24日、Ecopetrolは、コロンビア最大の石油化学会社Propilco社を6.9億米ドルで買収することで合意した。
- Propilco社は原材料の30%をEcopetrolから調達している。Ecopetrolは、この買収によって高付加価値製品の製造へ事業の多角化を進めることになりE&P部門、リファイナリー部門とのシナジー効果が期待できる。
- Propilco社はコロンビア国内の他、メキシコ、ブラジル、エクアドル、グアテマラ、コスタリカ、ヨーロッパ諸国で事業を行っており、各年6億ドル以上の売上げを記録している。
- 現在、Propilco社の株は、テキサスに本拠地を持つ運用会社Stanford GroupとコロンビアのValorem社がそれぞれ50%所有している。

2. Cementos Argos社、1.6 億ドルを新たに对外借入

- 12 月 27 日、コロンビア最大のセメント会社 Cementos Argos 社は、シティバンク・インターナショナルとデンマーク輸出入銀行より 1.6 億米ドルの借り入れを行った旨発表した。期間は 11 年 6 ヶ月で利率は LIBOR プラス 1.11%ポイント。
- 本件は、現在進行中のカルタヘナの工場建設プロジェクト(約 3 億米ドル)にかかる資金調達の一部で、主に機材などの輸入に使用される見通し。
- 新工場は 2009 年半ばの稼動開始を予定している。

以上

本レポートは発表時の最新情報に基づいて作成されておりますが、情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、レポートの内容は今後予告なしに変更されることがあります。予めご了承下さい。